

京都支部報

大学図書館問題研究会京都支部

No. 9 1980.
11.5

〒606
左京区吉田本町
京大経済学部
図書室2居5付
751-2111 (3412)

京都支部第3回支部総会

目

◇ 1980年11月15日(土) P.M. 2:00-5:00

◇ 龍谷大学

議事日程

2:00 開会 あいさつ 大学図書館の基本
方向

2:15 報告1 組織報告・方針案

2:30 報告2 研究企画について

2:45 討論 大学図書館の動き 研究の課題・
意味 市立図書館 常任委・事
務局移行・組織拡大

次

4:30 採決

4:35 支部委員の選出

4:45 特別決議(市立図書館)

4:55 閉会 あいさつ

才3回支部総会

I 経過報告

(1) 日誌

1979. 10. 20(土) 才2回支部総会 6大学 16名

11. 7(土) 才1回支部委員会

12. 22(土) 才4回例会 「京都市立図書館をめぐって」
19名(5大学14名, 文庫4名, 芝田正夫氏)

才2回支部委員会

12. 24 京阪神3支部協議

1980. 1. 7(月) "

1. 15(火) "

1. 16(水) 才3回支部委員会

1. 19(土) 特別研究集会と懇親会(3支部合同例会 約50名
講師 森耕一氏)

2. 23(土) 才4回支部委員会

2. 26(火) 「自由宣言と大学図書館」才1回研究会

3. 5(水) " 才2回研究会

3. 9(日) 大阪・兵庫合同例会

3. 10(月) 「自由宣言と大学図書館」才3回研究会

3. 21(金) " 才4回研究会

3. 25(火) " 才5回研究会

4. 8(火) " 才6回研究会

4. 17(木) " 才7回研究会

「図書館学の課題」(森耕一・発行)

「図書館学関係雑誌・館報等所載一覧表」作成

4. 20(日) 大図研全国研究集会(関西集会) 約80名

京都17名

- 4・28(月) 才6回支部委員会
5・8(木) 全国研究集会実行委
5・11(日) 市民開放委(大阪・兵庫合同)
5・17(土) 才5回例会「ネットワークの考え方」(講師・
樋谷椿久夫氏 22名)
才7回支部委員会
5・25(日) 大図研10周年記念集会とレセプション
6・28(土) 才8回支部委員会
7・5(土) 「大学図書館政策」才1回研究会
7・9(水) " 才2回研究会
7・18(金) " 才3回研究会
7・19(土) 才6回例会「全国大会議案の検討」
7・22(火) 「大学図書館政策」才4回研究会
8・1(金) " 才5回研究会
8・2(土)～4(月) 全国大会(箱根)
9・20(土) 京都市立図書館・社会教育総合センターを考へる
つどい(教文1号 約100名, 大図研9名)
9・27(土) 京都・大阪・兵庫3支部合同会議(大阪)
10・4(土) 機械化問題研究会才1回
10・18(土)

(2) 会 員	第1回	第2回	第3回	
京大	27	27	29	
工繊大	2	2	2	
教育大	2	1	1	
府立大	1	1	1	
府医大	0	0	1	
立命	4	7	8	
竜谷	3	5	4	
同大	1	3	3	
池坊	0	1	0	
精華短大	0	1	1	奈良教育大!
滋賀医大	2	2	2	
	42	50	52	計 53

(3) 特徴(成果と問題点)

1. 研究活動をさかんにする第1歩をふみだす

「図書館学の課題」(森林一)の講演とパンフレットの発行

「図書館学関係雑誌・館報等所蔵一覧」の作成

「図書館の自由宣言と大学図書館」「大学図書館政策」についての集中的な研究会

「機械化問題」「図書館史」でも小グループ発足へ

2. 京都・大阪・兵庫 3支部の交流が始まる

合同例会(「図書館学の課題」)

全国研究集会とその準備

大阪・兵庫合同の専門委員会への参加

3. 活動がまだ支部委員会中心で、全会員参加にはいたっていない

「支部報」発行の停滞

支部委員会の構成と日常の連絡体制が不十分

小グループによる研究活動の組織化がおくれている

4. 京都における図書館市民運動への積極的にかかわりにふみだす

京都市立図書館の課題

5. 会費をふやすための特別の努力をはらわなかつたために現状維持にとどまる

II 図書館をめぐる動き

(1) 大学図書館

1. 大学をめぐる情勢の要点

大企業本位の経済政策と高等教育の多様化、生涯教育の拡充の要求

「国民のための大学づくり」の課題

① 大学改革と大学民主化

② 大学教育の改善

③ 定員・予算増など教育・研究条件の整備

④ 学術の中心としての大学の役割りの発揮・学内の発展

⑤ 愛国主義とのたたかい

2. 大学図書館政策をめぐる二つの方向

「ネットワークシステムの構成機関としての発展」が

大学の全構成員・国民の要求にもとづく大学図書館の総合的発展が

3. 大学図書館行政の特徴

学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」とその具体的推進

4. 大学図書館にみられる特徴的な状況

大学図書館側の問題意識のうすれ、主体性の喪失の状態

二次資料・相互貸借「ブーム」は、他方で自館での資料収集のあきらめをもたう→要求の切捨てへ

5. 大学図書館の総合的発展の基本方向

「国民のための大学づくり」の一環として大学図書館改革を位置づける

研究と教育の統一的把握

教職員の間、図書館職員の間、学生との対話

定員・予算問題の重視、労働条件・民主的権利の確立

公共図書館運営力との連帯

6. 大学図書館における諸問題

(2) 公共図書館

「住民の学習権を保障する図書館づくりの中身を考えよう」(オ27回
図内研全国大会基調報告)

(3) 京都における図書館問題

京都市立図書館をめぐって

(4) 各大学図書館の動き

京大

工繊大

教育大

京都府大

京都府立医大

毫谷大

立命大

同志社大

奈教大

滋賀医大

Ⅲ 活動の方針

(1) 活動の基本

1. 日常的な研究活動をさかんにし、大学図書館員間の交流を密にする
2. 各大学図書館の伝統と活動について理解を深める
3. 大学図書館の現代的な諸問題について認識を深め、その解決のために共同する
4. 京都の図書館市民運動に積極的に参加する
5. 大学の社会的機能としての学術研究や教育の問題とともに広く社会の文化的諸問題についても生き生きとした関心をもって活動する

(2) 活動の課題と具体的なすすめ方

1. 会員間の自由な交流と創造的な研究活動をすすめるために
 - ① 例会を開く
 - ② ホグループによる研究交流を活発にする
自主的なテーマをきめると同時に、支部委員会でも具体案を出して一つ一つ組織し援助していく
 - ③ 研究成果を「大学図書館問題研究会会報」に発表する
 - ④ 関西3支部の共同例会などを開き、交流を深める
2. 各大学図書館を知り、日常の図書館活動に役立てるために
 - ① 参加大学(会員)をふやす

② 図書館見学会を例会とも結合し、系統的におこなう

③ 日常的な図書館活動において会員間の協力をすすめる

3. 大学図書館の諸問題について認識を深め、その解決へ共同するために

① 国の学術政策教育問題、大学図書館界の動きに注意をはらい、
情報交換を密にする

大学図書館政策研究会(半2期)をひらく

② 図書館関係の諸団体と協力する

③ 日教組大学部、私学部、自治労傘下の図書館関係組合と相互に協
力する(教研集合、自治研集合など)

④ 利用者(教職員、学生)と話し合う機会をふやす

4. 大学図書館の文化・社会活動を豊かにするために

① 京都の公共図書館問題を積極的にとりくむ

京都市立図書館の民間委託に反対する運動に加わる

② 図書館員の専門的活動(主題に関する研究など)を交流する

③ 大学図書館に関するガイドンスの編集・発行を検討する

(3) 組織活動について

1. 支部の運営について

① 支部の運営は基本的には「大学図書館問題研究会会則」に準
じておこなう

② 総会、支部委員会、例会、グループ研究会をひらく

③ 総会で支部委員会を選出し支部委員会は支部長、副支部長、事務
局長などを互選する

日常の運営は支部委員会があたる

④ 支部ニュースを発行する

- ⑤ 支部財政は還元金を基礎とする
2. 各大学に班を設ける
3. 支部ニュースについて
 - ① 定期発行を堅持する
 - ② 取場のニュースを豊富に盛るよう努力する
 - ③ 図書館の動向を知るうえで必要な資料についての紹介に意を用
大学 いる
4. 参加大学をふやすために計画的に努力する

研究活動の充実にむけて

I グループ研究

・大図研の研究部力を担当・発展させるべく、小グループによる研究会活動
を拡大・強化する必要がある

小グループの形成とその運営

- ① 雨後の筍の如く“乱立”させる
- ② 参加資格は、大図研会員に限定せず、広く京都図書館に求める
- ③ 運営は各グループの自主小知に任せるが、次の点のみを確認しておく必要がある

・各グループは研究の成果を最低年1回以上、支部例会で
発表する義務をもつこと、更に出来れば「大図研論文集」
への投稿を行うことを考える

・費用については、各グループの自弁とする

・各グループ責任者の選出と事務局への登録

・例会の事前届出 → 支部ニュースへの掲載のため

グループ結成にむけて

① 支部委員が首頭をとって、速やかに既成事実をつくる

② 支部ニュース、各大学至までのP.R. 参加者募集を大々的に行う

・機械化グループ（発足 10/4 オ2回 11/1）

・図書館史グループ

・書誌

・図覧奉仕（相互協力）

・整理（目録法）

等が考えられる

全国研究集会（4月、名古屋）にむけて、大学図書館政策研究会
（オ2月）を集中的におこなう

II 例会の運営について

本年は、隔月開催ということでスタートしたが、現実には、市立図書館、講演会のあと、機械化、議案書検討が行われたにすぎず、少なかったようである。出来るならば、もう少し増した方がよかったのではないか。こうした反省をふまえ、次の如く予定を考えた。(1)

〔原則〕

・例会は、見学、レクレーション等を含め、出来るだけ月1回に近づける。

・開催は各大学交代で行うことにする

府大 京大 立命大 滋医大 工経大 龍大の6校

〔予定表〕

1980. 11 支部総会（オ3回）

12 見学会（滋医大，滋賀県立図書館）

1981. 1 講演会（オ2回） 小倉氏 テーマ未定 3支部合同

新年会

2 例会（工織）機械化 平元氏

3

4 例会（京大）図書館史 広庭氏

5 レクレーション ハイキング予定

6 例会（龍大）ランカサータンの5原則の書誌
・ 渡田氏

7 例会（立命大）議案書検討

8 全国大会（神戸）

9 支部総会（オ4回）

10

11

この他に「データベースの特徴」など実際の仕事に役立つ講習
会的なものも計画する。

シンポジウム

《12月6日(土) P.M. 1:30~》

附属図書館の新営と

利用の問題を考える

今、京都大学附属図書館の新築構想をめぐって重大な問題が起きようとしています。図書館が新しく建つことはたいへん望ましいことです。利用者が最も利用しやすく、又取扱いがしやすい図書館を願うのはだれでも同じです。しかし、新営構想の内容は全構成員に明らかにされていません。うめさでは、工事中、約3年間、図書が充分に利用出来ないこと^{その}です。これは重大な事だと思ひます。そこで12月6日に館員と利用者がいっしょにこの問題について話し合うため、シンポジウムをひらきます。参加しましょう！《場所：附属図書館会議室》

京大取組図書館部会・大学図向研京大研英催

大学図向研・おしらせ

《国内問題講演会—市民の図書館を求めて—》 竹内 悠 氏
公共図とは、図書のしごと (専修大教授)

12月7日(日) 1:30~ 毎日新聞ホール(三条御幸町) 塩見 昇 氏
(大阪教育大教授)

《12月例会》 滋賀県立図書館・滋賀大図書館見学会

12月18日(木) P.M. 1時半・国鉄浜田駅集合！ 新築になった滋賀県立図の活動ぶり、医学図における情報サービスの実際をくわしくみま。

《新年研究集会》 岩橋敏生 (京大教授) の講演

81年1月17日(土) 大阪府立労働センター(天満橋下車西)

特別決議

< 京都市立図書館・社会教育総合センターの「財団委託」に反対する >

来年4月にも市館がみこまれる京都市立図書館・社会教育総合センターの管理運営を全面的に財団委託する構想が市当局によつて明らかにされました。

私たちは財団委託の真のねらいが、市当局のいう「民間の活力を生かす」ことにあるのではなく、行政の効率化を口実に、地方自治体が本来、直接に責任を負うべき住民サービスの切捨てにあるといわざるを得ません。

世界の公共図書館の歴史の中で、嘗々と築きあげられてきた公共図書館の理念を根本から否定する今回の市当局の構想が、市民の要求する図書館法に精神に沿った、すべての市民が気軽に利用できる市立図書館のイメージからほど遠いものであることは明らかです。図書館サービスを支えるために必要な専門職員の配置、市民の求めるあらゆる図書・資料の提供、児童サービス、障害者サービスの充実、「図書館の自由宣言」の精神など、どれひとつとして、安あがりの文化行政からは生まれようのないものです。

私たち、大学図書館問題研究会々員は、歴史を誇る文化都市京都に居住し、働き、学ぶものとして、また京都市の社会教育に直接・間接に深いかわりを持つ公私の大学図書館に働くものとして、本来あるべき市立図書館・社会教育センターを実現するために、市当局が財団委託構想を撤回するよう強く要望するものです。

1980年11月15日

大学図書館問題研究会京都支部第3回総会